家庭と地域で
非行や事故から青少年を守ろう

夏は青少年の犯罪の多い季節といわれる。また、水死や交通事故などで多くの子どもたちが生命を失いあるいは負傷している。そこで家庭や地域のおとなたちお互が、つぎのことに気をつけ、こどもたちを守ってゆこうではないか。

幼児を守るために

▽添え乳、添寝で、ちっ息することのないよう、また犬、猫にかまれることのないよう。
▽針、ボタン、硬貨、薬品など、あやまって飲みこまないように。
▽二階の窓、バルコニーから落ちたり、冷蔵庫や電気洗濯機へはまり込んだり、扇風機に指などはめないように。
▽道路や踏み切り近くや、池川のふちでは一人歩きや一人遊びをさせないように。
▽残りもの、不消化物、生物などを食べさせないように。
▽食前には手洗の習慣をつけ、昼寝をさせ、外出のときは帽子をかぶせ、寝冷えなどもさせないように。

小、中学生を守るために

▽外出のときは正しい歩行をするように教えましょう。
▽自転車を与えるときは、正しい乗り方、交通の方法を教えましょう。一人乗りや自動車のあとを追いかけるのは事故のもと。
▽花火やロケット煙火など危険な遊具をもってあそばないように。
▽水泳や魚取りはおとな引率で、行先をはっきりさせて行くように。
▽夏祭りや花火大会など遊びに出るときは、なるべく家人と一緒に行くように。
▽遊びに出るときは、行先、帰宅の時間を確め、夜遊び、夜ふかしはさせないように。
▽映画や読物は、学校で推せんや指定したものを見せるように。
▽子供会や少年団などに参加させ、友達と仲よく遊ばせよう。
▽夜は家族団らんの時間をもち話し合って、正しい社会規則を身につけさせよう。

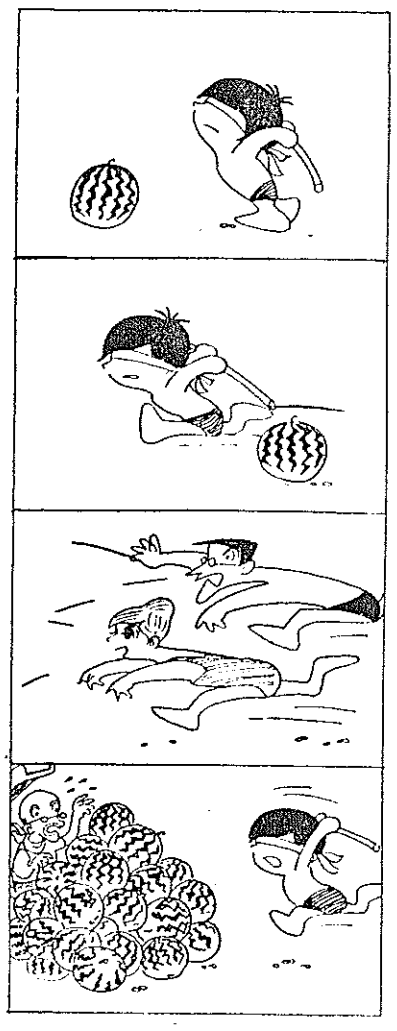
高校生を守るために

▽飲酒、喫煙、睡眠薬遊びなどは非行の原因です。そんな徴候を早く発見して、やめさせよう。
▽つとめて野外活動やスポーツに参加させるとか、健全なアルバイトをさせよう。
▽友人関係に気をつけ、自分の行動には責任を持つ態度を養わせよう。
▽バイクやオートバイの無免許運転や、無暴運転はさせないように。
▽ノイローゼなどの多い年頃です。明るい家庭団らんの場をつくり、気軽に何でも話し合える雰囲気をつくりましょう。

投稿　毎月二十日（八百字以内）　宛先　広報委員会

ボクちん

れんさいマンガ　沖本敏夫



くすりの安売り

最近、くすりの安売問題が新聞紙上をにぎはし、過日の県議会でもこの問題の質疑応答があり、県民の話題となっているが、二、三の点について誤解されているむきもあるので、実状を発表して大方の理解を深めたいと思います。

新聞に保健薬四～五割引と大きく掲載されたが、本県薬業界でも、高知市南国市など中央部では、すでに昨年より二～三割引しているので、こんどの値下げで実質的には一～二割引となります。

たゞし、四～五割引となるのは、グロンサンアンプルなど一～二の保健薬であり、二割引となるものにアリナミン、その他の保健薬があります。

しかしながら、業者や一般の方が値段のみにとらわれて過当競走をして、不正、不良医薬品が出廻る結果となると、県民の保健衛生上、面白くないので、この点とくに組合員の注意を促して、間違いないよう警告を発しています。

と申しますのは国内の商品で返品できるのは、医薬品と書籍ぐらいのもので、とくに医薬品は直来特売と称して、メーカーから小売店への大量押し込みがあります。

これらのうち、売れ残ったものが、六カ月から一カ年後にメーカーに返品されるのです。

返品されたものをメーカーとしては、アメリカ政府が小麦の価格安定のため焼却した如き措置を取り得ないので、このような棚ずれ品が、ヤミルートを通って安売市場に出廻る恐れが多分にあります。

雑誌の場合は、新品でも月おくれは直ぐ古本屋に出ます。

また、一般の薬局、薬店では、たびたび売れない特殊の医薬品でも、県民の保健衛生のため常備していますが、県外でも安売乱売店では、良く出廻るものだけしか取扱っておりません。

以上が、この問題の実状でありますが、とくに医薬品のなかには、古くなると効力の減少するもの、また、貯蔵法、あるいは用い方の大切なものなどがありますので、専門家に相談の上、正しく用いることが大切です。

吉本　敏夫

あなたの悩みは
無料人権相談所へ
毎月20日　午前10時から
―中町公民館―

ブラジル
ブラジル開拓残酷物語
見聞記

上饅頭の墓地はふえ、妻を失った夫、子に先立たれた親、夫を喪った妻、親を喪ったこどもたちが自らも高熱のためフラフラしながら墓地へ行った。両親の墓地の傍でうずくまり花を握ったまゝ冷たくなっていた子供、墓地へ行く途中でたおれたあわれな姿……。

医者を呼ぶこともできなければ薬とてない、二月に入って犠牲者はさらに多くなった。最初のうちでこそ死体は棺に入れて葬られたが、そのうち板もなくなってしまった。子供の時には柳行李や漬物桶まで使われた。しかし後には穴を掘る気力のある者もいなくなったので秘かに火葬が行われるようになった。火葬の初めは吉武基の母親であった。吉武夫婦は幼い子供二人を残して死んでいった。吉武には年老いた母親があった。老婆は二人の孫をつれて途方にくれていた。そのうち誰言うことなく「吉武の婆さんが見えないじゃないか」というようになった。元気のある者が吉武の小屋に行って覗いて見た。あわれにも老婆は死体となり蛆が身体中を這い回っていた。子供二人は老婆の死も知らずに無心に蛆をつかまえては投げていた。取りあえず子供だけは引離したものゝ老婆の遺体は腐敗と蛆のためどうすることもできなかった。みんなで相談の結果、その小屋に火をつけて火葬にしてしまった。

その頃ようやく平野の報告と依頼とによって政府からと松村総領事から、キニーネが送られ、戸田医師を派遣してきた。しかし三月に入って犠牲者は更に多くなり一日に三人という日もあった。一家全滅こそなかったが残ったのは子供が一人二人というのは多かった。今これらのうち、ある者は立派に成人し毎年7月15日には平野植民地内にある立派なお寺で、附近在住の植民者と共に旧墓地にぬかづいて亡き父母兄弟を偲んで泣く…。

私も平野植民地の西隣、6粁程離れた植民地に三ケ年程在住していたので機会ある毎に生き残られた方々から体験談を聞く事ができた。

また7月15日の合同慰霊祭にも出席することができ、植民地開拓の犠牲者80余名の冥福を静かに祈った。

このように言語に絶した試練を経て未開の原始林を伐り開いた開拓先駆者に衷心より敬服の念をいだき、7月15日には故国日本から礎石となられた開拓犠牲者の冥福を祈って筆をおく。

伊藤　洋

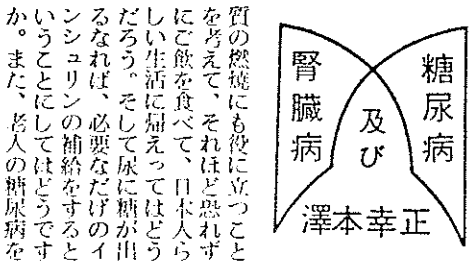
夏の入浴

きせつのわだい

私はイライラし始めた。家人には何でもないことに腹を立てて当り散らすし、患者に対しても医者としての態度を忘れてしまいそうになってきた。畏友北村先生は見かねて、一度入院して身心の安静をとっては如何かと忠告してくれた。

その頃、医師会の問題がもつれていた頃で、私も末席に連る一員として度々高知に出向いていたもう一人の同門の医者が私の糖尿病に対してとっている手段についての批判を次のようにしてくれた。沢木さん、貴方の食生活の主眼が尿に出てくる糖を恐れるの余り、糖質の極端な制限即ちご飯は僅に一回軽く一杯しかとらず、代りに蛋白質や脂質で必要なカロリーを補っているやり方はどうも賛成出来かねる。言って見れば西洋人のような食生活をしているが、西洋人に糖尿病がないかと言えば、決してそうではない。しかも西洋人の糖尿病は重症で日本人のは大体軽い。

こういうことから考えても糖が出るから糖質をへらすというのは余りにも単純な考え方のように思える。それより、充分な糖質は脂質の燃焼にも役に立つことを考えて、それほど恐れずにご飯を食べて、日本人らしい生活に帰えってはどうだろう。そして尿に糖が出るなれば、必要なだけのインシュリンの補給をするということにしてはどうですか。また、老人の糖尿病を食生活の規制でもって根本的に癒そうとしても無駄な努力ではあるまいか。まあこんなことを言てくれた。私の過誤の一番大きなことは、自らが既に老人になっていることを忘れていたこと、清盛が入る日をさしまねいたように、老い衰えて行く我が身に青春の息ぶきをよみがえらせようとした浅はかな努力、そしてその不可能から起る絶望感こういったもので、私のまあ自然現象とも受取れる糖尿病を根治させようともがいた所にある。



頂門の一針とも言うべきこの助言が私を立ち直らせた。私は現在でも尿中に糖を出している。そして少許の口渇多尿もある。併しもう、それを治そうとはしていない。ただそれが悪化して早晩私の生命をとるような悲惨なことからは出来る限りご遠慮申し上げようとしてはいる。糖質もやみくもにはとっていないし、時々尿の検査もする。そして、老人の糖尿病によいというクロールプロパマイドという内用薬ものんだり止めたりしている。

私は生来酒が好きで、友人知己と共にのむとハメを外す傾向がある。こういった悪癖は残念ながら未だ根を絶つには至ってないが、この病気に恵まれてからは、つとめてそんなチャンスを避けようとするし、また、そんなチャンスに飲みすぎても、後悔することが深刻になったので、私の健康保持に役立っていると思う。

一病長寿という古人の諺は誠に私を諺かなかった訳である。医者である私できへ慢性の疾患に会うとこの如く迷うものである。医者でない一般の方々は信頼出来るお医者さんを選んでよき助言者とし、こんな厄介な病気になった場合は、過ちのないようにしていただきたい。

次は腎臓病です。

夏の入浴

ひとふろあびて汗を流したあとの気持ちは、何ともいえないものである。冬のふろはよごれを落とすだけでなく、からだをあたためるという作用があるが、夏に入浴すると涼しさを感じる。熱い湯にはいって涼しい……というのはちょっと矛盾するように聞こえるが、夏の入浴のコツは、熱めの湯にちょっとつかってすぐ飛び出すことである。「夏にふろにはいるとサッパリする」というのには二つの理由がある。

その一つは、汗をかいて皮膚の表面に塩分やその他の分泌物がたまると、汗などが洗い流されて体熱の放散がスムーズに行なわれるためである。

もう一つの理由は、熱い湯にふれると、体温を調節する温熱中枢の働きで自然に熱の発生を減らすためである。大げさにいえば、体内から冷えてくるので涼しくなるわけである。

そこで、大切なことは、熱い湯にさっとはいるか、熱い湯を浴びるようにすること、ぬるま湯に長くつかっていると、からだのシンまであたたまってしまうので、ふろからあがったあとも暑くるしい。

「あつい、あつい」と水をあびる人があるが、水をあびると皮膚の表面の体熱をうばい、血管を収縮させるので、一時的には涼しい。しかし、温熱中枢によってからだの内部から熱の発生が促進されるので、すぐボカボカはてってくるから、かえって暑く感じる。

夏には、冷い水より熱い湯を浴びたほうが涼しいのはこのためであるから、毎日でも入浴するとサッパリする。

なお、熱い湯、冷い水などはからだに刺激を与えるから、高血圧や心臓の弱い人、お年よりなどは、自分の好みのお湯にはいるほうがよい。

病気の人は体力を消耗するから、必ず医師に相談することが大切である。

編集後記

▽広報によせられる原稿は八百字以内にしてもらいたいものだ、帯に短かしたすきに長しというが、限られた紙面の効果を考えれば、短いものが多くある方が編集子としては都合がよい。

▽朝夕はめっきり涼しくなった。農繁期の疲れをはやくいやし、健康の失地回復につとめられたいものだ。我々も発行日の失地回復につとめよう。

転入・転居の
届け出では
14日以内に
住民登録

たばこは
市内で
買いま
しょう!!

ブルトザー運転手募集
経験（開こん、整地）のある方は
特に優遇します。
立田　吉本鉄工所　電話 2729